

ひかりのこ

4月園便り

聖ミカエル幼稚園

2019年4月9日

月主題：ありのまま

3月にしっかり成長した年長さんを見送って、あっという間に4月の始業式、入園式となりました。皆様、ご入園、ご進級、おめでとうございます。

特にご入園のご家庭は、お子さんの園服を着た姿に、感慨もひとしおであることでしょう。ついこの間、この世に生を受け、寝返り、ハイハイ、つかまり立ち、離乳食、と成長してきた我が子が、集団の保育の中に一人で入っていく。すごいことですね。

さて、話は変わりますが、新しい元号が「令和」となりました。何でも、『万葉集』の歌からとったということです。

私は8年前まで、札幌市内の中学校で国語を教えていました。中学校では、『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の三大和歌集を教えます。『万葉集』は時代も一番古く、他の二つの和歌集に見られる技巧もあまり見られず、素朴で飾り気がない点が特徴になっています。作者も他のふたつが「天皇・貴族・僧」と言った位の高い人であるのにくらべて、「天皇・貴族・農民」と幅広くなっていることも特徴です。

私も、そんなに万葉集を詳しくわかっていないのですが、生徒たちに教えていて、その素朴さに生徒たちとともに感動していたものです。

山上憶良の子どもを思う歌は有名です。「瓜食めば子ども思ほゆ 栗食めばまして思はゆ何処（いづく）より 来たりしものそ眼交（まなかひ）に もとな懸りて 安眠（やすい）し寝（な）さぬ」（意味）「瓜を食べれば子どものことが思われる。栗を食べれば一層子どもが思い出される。いったい子どもはどこから来たものなのか。目の前にしきりにちらついて私に安眠もさせないことよ。」

憶良さんは男性ですが、貧しい者、妻子に対する愛情の歌を詠んだ人として有名です。仕事をしていても、おいしいものを食べていても、寝ていても、子どものことを思う子煩悩なお父さん像が浮かんできます。

お父さん、お母さん、子育ては大変ですが、お子さんといられる時期は、ご自分の一生の中でほんの少しです。そして、この幼児期は、お子さんのできることがどんどん増えて、よく見れば見るほど面白い時期です。お子さんは、ご家族の愛情と願いの中で大きく成長します。どうぞこのかけがえのない幼児期に、少しで

もお子さんのためにご自分の時間を割いて、一緒にいてほしいと思います。

幼稚園の職員は、お子さんが、登園してくるのをとても楽しみにして、春休みを過ごしました。聖ミカエル幼稚園で、私たちと一緒にお子さんを育てていきましょう。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「出会いの春」

新入園のみなさん、おめでとうございます。

この春、生まれて初めて幼稚園で集団生活を経験するお子さんも多いことと思います。慣れるまでは不安もあるでしょうが、すぐに幼稚園が楽しい空間に変わっていくことと思います。そして、友だちを作るという経験もたくさんあるでしょう。先生、お友だちとの出会いが待っています。そして、出会いこそが人を豊かに成長させ、人生を形づくっていきます。

聖書を開くと、イエス様に出会って人生が変えられた人々のことが多く記されています。多くの弟子たち、障がいや重い病気をもつ人々、社会の片隅に追いやられた人々、異邦人と言われて差別されていた人々に、希望と喜びが取り戻されます。自分は受け入れられているのだ、絶望しなくていいのだと気づかされます。イエス様の愛が人を守ります。

聖ミカエル幼稚園は、このイエス様の愛を土台にした幼稚園です。毎週月曜日、教会の礼拝堂で子どもたち、先生たちみんなが集まって礼拝を行います。そこで祈り、先生からお話を聞く中で、子どもたちは少しずつ、キリスト教の神さま、イエス様のイメージが形づくられ、自分が愛され、守られていることを実感できるようになるでしょう。こうして、子どもたちもまた、イエス様との出会いの中で成長して行くことがこの幼稚園が大切にしていることの一つです。

この幼稚園で、わくわくする出会いがたくさんありますように、お祈りいたします。

チャプレン 司祭 下澤 昌